

# ハスの効果的な駆除技術の開発

内水面研究所

## 背景、目的

コイ科に属するハスは国内の他地域からの移入種で、県内での生息数は近年増加傾向にあり、魚食性が強いことから、他県でも在来種であるアユやオイカワへの影響が課題となっています。

本研究は、本県でのハスの生態及び食害状況を調べるとともに、効果的にハスを駆除するための時期、場所、方法の開発を目的としました。

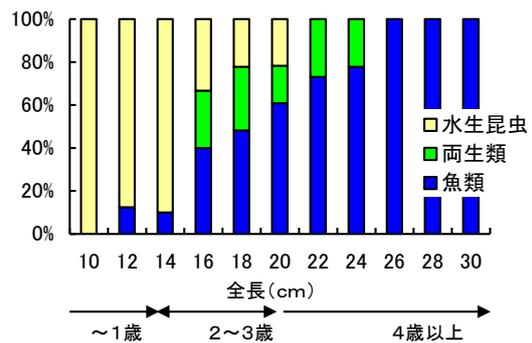
## 成果の概要

### (1) 生態及び食害状況調査

本県に生息しているハスは、2～3歳から魚食性が強くなり、全長20cmを超える4歳頃にはほぼ魚のみ食べ、特に3～4月には遡上してきたアユを選択的に捕食する傾向が見られました。ハスは5～8月に、底質が砂や小砂利の水深20～50cmの場所で主に産卵しており、オイカワと同じような時期、場所であることがわかりました。



ハス（上段♂、下段♀）

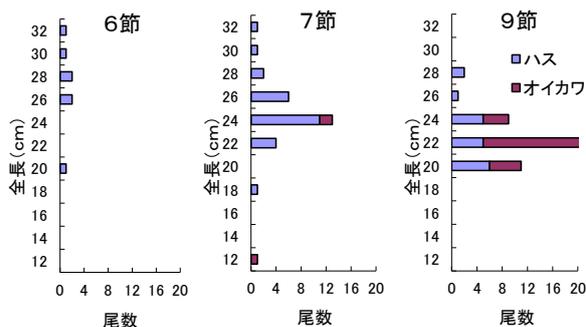


ハスの成長に伴う食性の変化

### (2) 効果的な駆除方法

ハスを効果的に駆除するためには、産卵場所に集まったハスを刺し網で採捕することが有効ですが、産卵場所が同じオイカワも混獲されてしまいます。

このため、刺し網の目合い別採捕試験を行ったところ、7節の網を用いることで、ハスを採捕し、かつ、オイカワの混獲は防止できることが明らかになりました。



刺し網の目合い別採捕尾数



刺し網（7節）を用いた採捕風景